

棚田に吹く風

2025
春
Spring
季刊

2 特集

棚田を潤す
ため池物語

5 フォトエッセイ

棚田の愉しみ

6 里山だより

《一集落一農場》で地域を守る
岩手県遠野市宮守町宮守地区

8 棚田BAR

生きものの屋の里山考

9 棚田博士は今日も行く

甲賀忍者の里にある棚田
滋賀県甲賀市水口町今郷

12 読者のひろば

14 棚田俳壇

スタッフのつぶやき

15 Project Report



ため池物語

棚田のお米づくりで一番大切なもの、それは水源です。今回の特集ではこのうち「ため池」を取り上げてみました。先人たちの労苦のもと築かれたため池は、田んぼを潤すばかりではなく多様な機能や神事など持ち合わせ守り継がれています。その一端をご紹介します。

大芦池

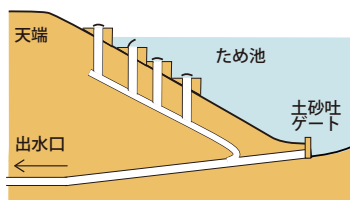
おおあしいけ

岡山県美作市 上山棚田

昭和40年代まで、上山地区には8千枚もの大規模な棚田が広がっていたといえます。この広大な棚田を潤し続けてきたのが、周囲1・5kmに及ぶ大きなため池「大芦池」です。標高500mに位置し背後の山に築かれた「かけ井出」と呼ばれる約3kmの水路で山に降り注いだ雨水を集め、ため池に注いでいます。

ため池は、奈良時代から今日まで延々と守り継がれ洪水防止、生き物の生息地など多面的な機能も併せ持っています。天端は舗装され車両も通れるなど強固です。取水方法は「斜樋・栓」タイプで水面近くの暖かい水を手軽に棚田に供給することができます。周辺にはキャンプ場やリゾート施設もあります。

昭和40年代の上山棚田（写真提供：高田昭雄）



取水口のイメージ「斜樋・栓」タイプ

左：残雪の姨捨棚田／右：冠着山を望む「大池」
(写真提供：さらしな堂・大谷善邦)

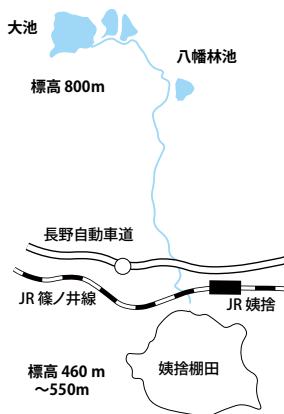


大池 おおいけ

長野県千曲市 姨捨棚田

JR姨捨駅に降り立つと眼下に棚田、千曲川、善光寺平が織りなす広大なパノラマが展開します。この姨捨棚田を潤すため池が「大池」と「八幡林池」で、棚田から2kmほど山をのぼった標高800mの高所にあります。背後の山の豊かな湧水を蓄え温めてから棚田へ落としています。姨捨棚田は、古今和歌集にも詠まれており起源は平安時代といわれていますが、当時の棚田は規模も小さく付近の湧水で間に合っていました。

現在のような大規模になったのは人口急増の江戸時代から昭和初期にかけての開墾で、その水源確保として造られたのが、この巨大なため池です。原形が完成したのは明暦3年(1657年)で、今日まで370年にわたり棚田を潤し続けています。



左：深田ため池 (写真提供：長門市) / 右：東後畑棚田 (写真提供：長門市)

深田ため池 ふかだためいけ

山口県長門市 東後畑棚田

雨乞山(347m)の山麓に位置するこの地域は、周囲に河川が無いため農業用水確保の手段として数多くのため池が造られてきました。そのひとつが「深田ため池」で2010年には農林水産省の「ため池百選」に選定され、東後畑棚田を潤し続けています。

ため池の中心には浮島があり、周囲の棚田に溶け込む美しい景観を形作っています。特に川尻岬に夕日が沈んだ後は、無数の漁火が灯る幻想的な風景が広がり、多くの観光客、カメラマンを魅了しています。

ため池の起源は定かではありませんがかなり古く、稲作文化が渡来した時代と推測されます。千年もの昔「楊貴妃」が、この地方に船でたどり着いたという伝説が残されておりロマンをかきたててくれるため池です。駐車場や東屋も整備され憩いの場となっており容易に見学することができます。



左：神之淵池（写真提供：旅のあしあと）／右：北庄棚田（写真提供：旅のあしあと）



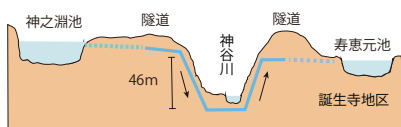
神之淵池

かんのぶちいけ

岡山県久米南町 北庄棚田

百選の棚田に選定されている北庄棚田には、水源のため池がいくつもありその一つが「神之淵池」で農水省のため池百選に選定され珍しいダブル百選地となっています。この神之淵池は、神谷川の対岸に位置する誕生寺地区の棚田にも水を供給しています。誕生寺地区は水源に乏しく干ばつ対策として神之淵池から神谷川の川底をくぐる逆サイフォン式で導水しています。

高低差46mにも及ぶ川底をくぐる導水管にかかる水圧はすさまじく難工事のすえ大正15年に完成し、対岸に恵みの水が流れた時の誕生寺地区農民は窮状を脱し歓喜のうずに包まれました。



「神谷サイフォン」の略図



左：山谷大堤（写真提供：九州農政局佐賀県拠点）／右：岳棚田

山谷大堤

やまたにおおつつみ

佐賀県有田町 岳棚田

岳棚田は、国見山系の中腹斜面から山腹を横切る国道の上430mまで広がり、水源はため池等に頼っています。国道脇には棚田を見下ろす展望台や休憩所を備えた棚田館があり、訪問者の憩いの場になっています。

ため池の一つ「山谷大堤」は岳棚田の下端に位置し、平成22年には農水省のため池百選に選定されています。ため池周辺の休耕田にはコスモスが植えられコスモス棚田とも呼ばれ、秋には水面にコスモスが映える美しい農村風景を醸し出してくれます。

ため池は江戸初期の1684年（貞享元年）に完成し、周囲には造成記念の碑がいくつもあり碑には「善女龍王」、「半蓑雨」などの表現が見られます。雨乞いや五穀豊穡を願う碑文として残され、現在の雨乞い祈願の神事である山谷浮立の伝統芸能として継承されており、夏と秋の祭りなどが集落の持ち回りで行われるなど集落共同体としての風習が残されています。

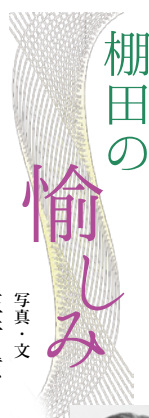


土筆の田んぼ

大地の草木も一斉に芽吹き始め、棚田を見下ろす土手では、たくさんさんの愛らしい土筆たちが出迎えてくれます。写真やスケッチに精を出す人、のんびりと散策を楽しむ人など棚田は少しずつ華やいていきます。

真冬の田んぼは、山から吹き下ろす冷たい風で人っ子一人見当たらず稲の切株や枯草畦の風景がひっそりと広がっています。家族ぐるみや小集団での共同耕作田んぼも一部は休耕田となり雑草で覆われた姿は少し寂しく感じられます。

ようやく厳しい冬も過ぎ3月に入ると共同水路のゴミ掃除に始まり、草刈り、野焼き、田起こし、畦づくりと田んぼ作業が続きます。野焼きは、あちこの田んぼで同じような時期に行われるので煙が舞いあがり、棚田で働く人の姿がかすかに見え隠れするほどです。



フォトエッセイ

棚田の野焼き



玉井 質 たまい ただし



- 1941 香川県生まれ
日本リアリズム写真集団所属・大阪府在住
- 個展
2005 「私の大阪城」ギャラリー福寿草
2006 「私の大阪城」メディアラボNEXT豊中店
2007 「悠久の大地―雲南」メディアラボNEXT豊中店
2007 「悠久の大地―雲南」ギャラリー福寿草
2010 JRP連続展「悠久の大地―雲南」喫茶トリービビット
2011 JRP連続展「悠久の大地―雲南II」喫茶トリービビット
2015 JRP連続展「私の大阪城」茶白山画廊
2023 「慰霊の時 ヒロシマ」アート・スペース・わ
- 写真集
『私景 大阪城マンダラ』 2018 (株)日本機関紙出版センター
『棚田の愉しみ』 2021 うめだ印刷(株)
『東チベット高原に行く』 2022 うめだ印刷(株)
『慰霊の時 ヒロシマ』 2023 うめだ印刷(株)

棚田・里山
からの
たより



《一集落一農場》で地域を守る

～農産物加工・販売から体験交流まで～

岩手県遠野市宮守町宮守地区



1：初夏の棚田をブルーベリー園から望む（西方）／2：棚田オーナー田の田植で、助っ人女子が皆初体験だった件
3：小学児童刈取体験withまるき方（結び方の方言）の師匠指導中／4：冬ボタル（棚田ライトアップ）

【起】旧宮守村棚田

旧宮守村棚田がある宮守町（宮を守る）と書く宮守村ってなんか素敵だと思いませんか？は岩手県のほぼ中心部に位置する「永遠の日本のふるさと」遠野市にあり、宮守町はその西端、遠野市の西の玄関口となっています。

遠野市は北上山地最大の盆地となっていて、低山地の隙間を清流、宮守川と寺沢川が流れており、イワナやヤマメが今でも田んぼの脇で釣れます。旧宮守村棚田はこの二つの清流沿いに細長く続く農村部にあります。平成6年から平成17年におこなわれた、宮守川上流地区整備事業によって形作られました。圃場整備がおこなわれた棚田ですので、皆さんがイメージする棚田とは一風趣の違う棚田なのかもしれません。圃場整備がおこなわれてなお棚田となってしまうような地形にあり大規模区画棚田の様相を呈しています。

また旧宮守村棚田は、宮沢賢治が

『銀河鉄道の夜』のモチーフにしたといわれる「めがね橋」よりさらに山あいに入り、1畝ほどから約1町歩となる419枚の棚田（72ha）で形成され、面積だけを見ても規模が想像できるかと思います。

【承】棚田のある暮らしと風景

沿岸から県央部までを貫く国道のトンネルを抜けた瞬間、目に飛び込むように広がる、圧倒的な旧宮守村棚田の光景に「思わず息をのむ」など感嘆のお言葉をいただくことや、圃場整備を済ませた画一的な田んぼにも関わらず、多くの方がイメージする田舎、または『遠野物語』の世界が今もなお息づいているように感じられる、と言う方もいます。

皆さんがイメージする田舎はどういったものでしょう。ここには朝日が覚めると、棚田を流れる霞、春、秋冬と薪ストーブの煙突から立ち登る煙、棚田を歩く馬、そんな場面がいつでもそばにあります。そして、初夏にはホタルのとぶ河川を環境整備

と称し、老若男女問わず早朝から一斉に草刈りをする風景などはある意味庄巻であり、住民総参加的な活動、コミュニティがそここにあり、まだまだ日本の田舎文化的風景が残されているように思います、観光者などに見せるためだけではない、この地で生活を営む者が自然発生的に、ともすると本人は気づくことなく棚田に守られ、棚田を自然体で守っているのかもしれない。

【転】継承

旧宮守村棚田は、地域の農地を一手に担い、産直や、農産物加工場をもち「一集落一農場」を掲げる「農事組合法人 宮守川上流生産組合」と全国でも先駆けとなるグリーン・ツーリズムに取り組み「認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク」が連携をもつて活動し、さらに地域の魅力を掘り起こしています。

その一つ「宮守棚田カンファクトラプ」として応援団を結成し、田植えや稲刈り、地元小学児童の苗づくりから脱穀、さらには販売までの農業体験のサポートをしています。作業の間には「こびる（おやつ）」

として、組合の農産物加工場で手作り郷土菓子（がんつきやきりせんしょ）が登場、参加者に喜ばれています。米もそうですが、スーパーには無い本物をぜひ現地で経験していただければ、また新たな驚きを得られると思います。

実作業に参加できなくても、ファンクラブ会員には返礼品として、収穫したお米「熊の洞米」、あわせて農産物加工場で製造されたジュースやどぶろくなど、地域色満点の逸品が提供され、地域内でしか感じられない旧宮守村棚田をもちかすると遠い地からも感じる事ができるかもしれません。

他にも、「棚田サイクリングツアー」で稲穂が黄金に輝く田んぼの中をマウンテンバイクで駆け、時には地元民宅に呼ばれ、こびる休憩を取るなど、予定外に住民との交流が



上：棚田オーナー田、収穫開始前の指導の様子／下：冬の棚田空撮

発生したりと地域との繋がりもつくってみてください。

令和5年冬から始めた、組合直営産直「サンQふる郷市場」でのイルミネーション設置や、棚田ライトアップ、思いがけず近くに上がる迫力の打ち上げ花火は、閉塞感がありモノトーンの世界となる冬季間の一つのイベントとして定着し始め、少しずつ規模を大きくして、冬に彩をそえつつあります。

【結】結び

ほぼ限界集落に近づきつつある地域ですが、夏も冬もそれほど厳しくもない気候で、人と人とのつながりを含めた地域循環ができる環境がそ

■ 棚田へのアクセス

【公共交通】 JR釜石線・宮守駅前からタクシー 利用で約10分

【自動車】 釜石自動車道・宮守ICから国道283号を北上し「遠野西中学校入口」の看板を右折し、更に4km

■ お問い合わせ

農事組合法人 宮守川上流生産組合
Tel.0198-67-2285
<https://miyamori-joryu.or.jp/>

岩手県 遠野市



【お詫び】前号に掲載した記事の連絡先が間違っていました。お詫びして訂正します。
枯木又エコ・ミュージアムの会
電話番号：025-759-2317

ろっているのが、旧宮守村棚田がある宮守町です。気張ることなく、少しでもリアルな田舎暮らし、ネイティブで通訳が必要となるような言語の世界へぜひ一度足を運んでもらえれば地域全員で歓迎します。
(宮守川上流生産組合事務局 菊池文彦)



左：日本一小さい花火大会：冬ボタル設置時に行われる打上げ花火／右上：当組合農産物加工場の代表商品／右下：わらび園 春の野焼き

棚田BAR ～棚田里山酒めぐり～



書き手：
丸地 典利

ふるさとの棚田を未来へ—— 四谷の千枚田とハッピーランドプロジェクト

愛知県新城市の「四谷の千枚田」は、「日本の棚田百選」にも選ばれた美しい原風景です。しかし、耕作者の高齢化と後継者不足により、この景観が消滅の危機に瀕しています。

「ふるさとを未来へつなげたい」——そんな思いから、2016年にハッピーランドプロジェクトを立ち上げました。2017年より、都市部の家族や企業を対象にした「棚田オーナー制度」を開始。参加者を「パディーキーパー (Paddy Keeper)」と名付け、共に棚田を守り育てています。活動は着実に広がり、休耕田の再生が進むとともに、「週末だけでも棚田のある暮らしをしたい」と地域に関わる人々も増えています。2021年からは、遊ぶように農をし、愛する酒を醸す「zero酒プロジェクト」も加わり、地域の活力がさらに向上。地酒「蓬莱泉」で知られる関谷醸造さんのご協力のもと醸造作業にも参加でき、自ら作って味わうお酒の味わいは格別なものです。2023-24シーズンには、耕作面積を3700㎡ (約1100坪) まで拡大しました。

棚田の未来は、私たちの手でつくるもの。あなたも「パディーキーパー」として、この美しい原風景を未来へつなぐ一員になりませんか？



四谷千枚田の天日干しミネアサヒで醸されるお酒の名前は「朔(さく)」と「礎(いしづえ)」。

会員だけが味わうことのできる非売品です。

instagram▶



Tanada BAR

生きものの屋の 里山考

文・写真 (株) 環境指標生物 内田大貴

田んぼにすむ“達人” ～脱出のプロ、マメガムシ～

厳しい寒さの冬が終わり、田んぼでは、これから本格的な田植えに向けて忙しくなる季節が訪れます。生きものたちも冬越しから目覚め、活動をはじめることでしょう。そんな時期だからこそ、これからの生きものの観察シーズンに向けて変わった能力をもった生きものを紹介します。

田んぼを主なすみかとする昆虫で「マメガムシ」という甲虫(カブトムシなどと同じ仲間)がいます。その名の通り、体長5mmほどの「豆」サイズの小さな虫で、棚田のある水田地帯では、水中で植物などの上をゆっくり歩く様子がよく見られます。

昆虫は田んぼにすむ様々な生きものの餌となりますが、これを利用する生きものの一つに皆さんもよくご存じの「カエル」がいます。このカエルたちは田んぼにすむ虫を好物の1つとしていて、マメガムシもよく狙われていることでしょう。

しかし、このマメガムシはなんと、食べられても胃などの消化管を内側から刺激して通過することで、何事もなく生きたままお尻の穴から脱出できる驚きの特殊能力を持っているのです。

たくさん生きもののすみかである田んぼでは、私たちの見えないうところで様々な攻防が起こっています。暖かいこれからの時期に田んぼでカエルを見かけたら、マメガムシのことを思いだしてじっと観察してみてもいいでしょうか。



田んぼにすむマメガムシ

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

甲賀忍者の里にある棚田

滋賀県甲賀市水口町今郷



なかしま みねひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク名誉代表。全国棚
田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミッ
ト開催地選定委員会委員長。1933年
宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地
歴科卒。2004年まで早稲田大学教育
学部教授。著書に『日本の棚田—保全へ
の取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百
選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。

1枚の広さ1畝の田んぼも

津まで戻り、草津線に乗り換え貴生川で下車する。駅南口からは甲賀市コミュニティバスの田村神社行があり、棚田のある今郷まで行くことができる。平日1日14便、土日・休日8便の運行は棚田地域にあつては便利な方である。

道程は駅の北口。駅舎を背にして直進、2つ目の交差点を右折、虫生野中央の信号を左折し、国道307号を北上する。野洲川に架かる水口大橋を渡り、すぐに右折、野洲川沿いに国道307号をさかのぼり、山川橋を渡って右折、県道549号を野洲川に沿い上流に向かつて進むと左手に神社が現れ、今郷集落に到着する。

甲賀市は滋賀県の南端にあり、平成の大合併で水口町・甲南町・甲賀町・土山町・信楽町の5町が合併して誕生した広域都市。今郷は新市の北の部分、東海道五十三次の50番目の水口宿があつた旧水口町の東端、野洲川の右岸にあり、南側を東海道に当たる国道1号線が走っている。近くには「坂は照る照る 鈴鹿は曇る あいの土山雨が降る」という俗謡(鈴鹿馬子唄)で知られる土山宿があり、昔から人通りの多い賑やかなところだつたと考えられる。

市内で山女原とともに棚田百選のニューバージョン「つなぐ棚田遺産」に選ばれたのが今郷である。

2024年6月下旬、今郷を訪ねた。東京からは、まず東海道新幹線で京都へ。次に琵琶湖線で草

今郷棚田



棚田は、集落から離れた河岸段丘上にある。地形はやや複雑で、標高190mにある集落背後には標高262mの布引山と呼ばれる丘陵があり、その裏側の河岸段丘面と考えられる平坦面、標高200mの部分に棚田が拓かれていた。農水省の個票によれば面積46畝、そのうち傾斜20分の1以上の斜度がある部分が4・3畝で、そのほかは斜度50分の1の緩傾斜の水田である。

棚田を含む水田69・4畝は、昭和42年から44年にかけて県営の農業改善事業による圃場整備が行われ、

東西方向に100畝、南北方向に20畝か30畝区画、すなわち1枚が20畝、あるいは30畝の整然とした水田に生まれ変わった。棚田は西寄りの部分に南から北に向かって5段から6段の段差になって形成されている。土坡の高さは50センチ前後あり、立派な棚田である。

里山を隔てた南側の18・6畝については、さらに平成7～14年にかけて担い手育成を目的とした県営の圃場整備事業が行われ、1枚が1畝区画の田圃に生まれ変わり、1枚を数名で所有しているそうだ。用水は丘陵中に設けられている溜池からもたらされ、2万5千分の1地形

図上でも12個の溜池を数えることができる。最も大きい今郷池は8段上流にある頓宮池を親池としているそうだ。

集落営農を支える人びと

現地では集落営農をすすめる「農事組合法人いまごう営農」の副組合長で今郷棚田集落協定代表の福野憲二さん、同営農の総務部長で棚田協定事務局長の長源一さん、同営農監事で同協定会計の服部宏幸さんのほか、山女原の筒井勇雄さん、福野さんと長さんの友人藤田佳信さんらにお会いした。

福野さんは68歳、伊賀の柘植出身。

津市の高校を卒業後、甲賀市水口に工場があるNECに入社、職場の同僚であった今郷出身の女性と結婚、入婿になった。そして福野さん26歳、奥さんが25歳の時、長男が生まれたが、よろこびも束の間、すぐに奥さんが亡くなり、長男は福野家の祖父に育てられることになった。平成12年に母が、平成18年に父が亡くなるまで両親を手伝い、その後は本格的な兼業農家となって所有する1・5畝の水田を耕作してきた。

長さんは63歳、息子が神戸大学の三年生だそうだ。本人は滋賀県内の高校を卒業後、隣県の三重大学に入学、卒業後草津市役所に入庁、まち

づくり協働部長を最後に60歳で一旦退庁、現在は再任用で同じ部署に勤めているという。水田2・7畝を所有する農家で、11年前に両親が亡くなってからは真正正銘の兼業農家になった。そのキャリアーから代表を支える有能なメンバーとして活躍している。

服部さんは72歳、娘2人は結婚して家を出ており、68歳の妻と2人だけの世帯。甲南高校を卒業後、NTTに入社、日野・草津・大津などで勤務した後、60歳定年で退職した。現在集落営農には参加しているが、所有する水田1・3畝は自身が所有するトラクター25馬力、4条植



1: 圃場整備された広い田／2: 水源の今郷池／3: 集落の茶畑／4: 山女原の交流施設／5: 集落営農のメンバーと筆者 (右から2人目)

田植機、4条刈コンバインを駆使して耕作を続けているそうだ。

個人耕作から集落宮農へ

さて、この集落宮農は2011年に担い手の高齢化と都市化の進展により個人での宮農が厳しくなり、集落の農家51戸が参加して始まった。集落宮農に参加しても服部さんのように個人で耕作する人もあり、作業にまで参加する人は30戸程度ということであった。

活動は生産部（資材購入、苗・農薬などの在庫管理）、労務部（人の差配作業の指示、機械部（オペレータの差配）、総務部（一般事務）、経理部（金銭管理、パソコン操作）などに分かれて行われる。所有する機械類はトラクター45馬力・3台、田植機8条植・2台、コンバイン5条刈・2台。地代は10[㍿]あたり2000円とされ、賃金はそれぞれ作業に応じ時給で支払われる。田植機作業1400円、コンバイン・トラクター作業1200円、手作業1100円、パソコン操作などの事務作業1000円などである。これらの作業や地代等で90万円以上得ている人が2人いるそうで、福野さんが約65万円、長さんは現在も草

津市役所に勤めているため、土日だけの参加となり、約40万円の手取りとのこと。それと各人の所有地の草刈りは各人が行うことになっているそうだ。

最後にオブザーバーとして顔を出されていた筒井勇雄さん73歳に、山女原の様子を聞いてみた。山女原は甲賀市の東端、新名神高速道路トンネルの上にある集落。交通の便は、貴生川駅発あいくるバスの終点、田村神社から山女原まで1日3便ほどコミュニティバスが走っているそうだが、かなり不便なところである。集落の戸数16戸、うち農家が10戸ほどあったが、現在も耕作を続けているのは水田20[㍿]を耕作する筒井さんのみだという。もう一方、エッセイストの藤田佳信さん74歳が同席されていた。私と同じ稲門の出身者ということもあつての福野さんと長さんの配慮だったと思う。

注目の集落宮農はどうして生まれたか

最後にまとめると、これまで200ヶ所以上の棚田地区を訪ねてきたが、当地のような集落宮農を行っている地区は一つもなかった。

それが今郷では10数年も前から実施されているのはどのような理由によるものか。第一に周辺地域の都市化・工業化の著しい進展で独立した農業経営が困難になったことがあげられる。今郷のある2万5千分の1地形図「水口」のなかだけでも「日立建機ティエラ」、「積水化学水口工場」、「TOTO滋賀工場」、「NECライティング滋賀工場」、「ペガサスミシン工場」などの大工場が立地している。

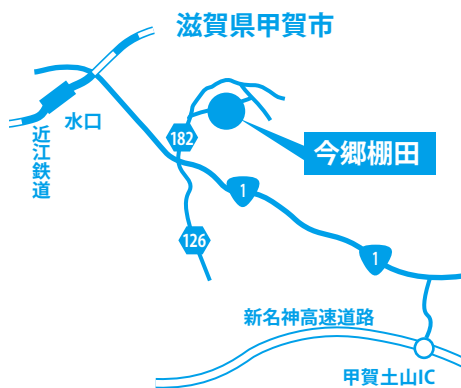
第二に大部分の水田が2回の圃場整備で一枚が20[㍿]から1畝区画の整然とした圃場に整備されてい

たため、45馬力のトラクターのような大型機械の使用が可能であったこと、第三に集団化に向けての住民の熱意があつたことや、福野さんや長さんのような棚田を生かしたまちづくりのリーダーの存在があつたことなどがあげられる。



昭和の圃場整備記念碑

棚田へのアクセス



【公共交通】 近江鉄道・水口駅前からタクシー利用で約8分

【自動車】 新名神高速道路・甲賀土山ICより国道1号、県道182号経由。ICより9km

※「棚田博士は今日も行く！」は今後は不定期掲載となります。



「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください! (ご要望、感想やご質問でもOK!) (声800字まで、レポート400字まで、写真も添えて) 〒160-0003 東京都新宿区西新宿七ーハー六 トーシンハイム新宿七〇四号「棚田に吹く風 読者のひろば」宛 メールでも受け付けています ↓ hensyuun@tanada.or.jp

棚田にかかわる人との出会い

山形県大蔵村 矢口 智

棚田にかかわる人との出会いは20年前のこと。青年時代から演劇上演活動を通して交流の続いていた「劇団ふるさときやらばん」が棚田の振興にどうにか関わっていると話を聞き、劇団を主宰する石塚克彦氏(取材と称し我が家を何回も訪ね、土産も持たずに、酒を飲み静かに話を聞いて帰る変わった人との家人の評)に詳しく聞きたいものだ。と劇団の高橋久代氏に話してみたら、いつでも東京に来いと言う。ハー、言うんじゃなかったと悔みつつ、はるばる東京へ。

若い時の懐かしい話、そして棚田との関わりのあるあれこれ、「棚田の知名度を上げたい」「振興を図りたい」との熱い思いを一晩聞かせてもらった。そして、「智ちゃんの所にも棚田があるんだから勉強しなよ」と言われ棚田学会へ入会する羽目に。現地見学会にも誘われ栃木の烏山へ。そこでの様々な人との出会いが今に続いている。棚田ネットワーク名誉代表の中島峰広氏ともそこで知り合い、間もなく棚田サミットに来て話をしてくれないかとの電話。快く即答したら、なんと遠い愛知県の「四谷の千枚田」。こうした出会い、関わりから始まり、長い年月を経る中で、棚田にかかわる様々な考えや思いを見聞きして現在に至っている。



棚田を見渡す筆者

2024年の12月初め、四国の小豆島を妻と訪ねた。初雪で真っ白の山形から、紅葉が始まろうとしている小豆島へ。これが同じ日本?とビックリしつつ島を巡り、島特産のとても細いソーメンを食しながら観光地図を見ていたら、ここにも棚田があることを発見。「中山千枚田」をしぼし探索。石積みの棚田群の真ん中に農村歌舞伎が奉納されるという威厳ある建造物。そして、中央にある休息の施設「こまめ食堂」。手作りのマフィンとコーヒーは旅の中でも一番の思い出となった。旨かった。

旅をするたびに、最初に目がいくのは棚田。また新たな棚田との出会いを楽しみにしている。



読者の Best Shot!

白米千枚田の復興を願って

東京都北区 野澤南

コロナ禍が明けて間もない頃、ずっと行きたいと思っていた能登の白米千枚田を訪れました。冬の時期でとても寒い中でしたが、日本海の波打ち際に広々と聳え立つ棚田がまるで生きていたようでした。能登の旅は楽しく、また訪れたいと思っていた矢先、令和6年1月1日の能登半島地震が起こりました。すぐに白米千枚田のことを思い出し調べると、地割れや地滑りなど大変な被害を受けたと聞きました。

震災から1年以上経ちましたが、関東にいる自分に出来ることを考えながら、またあの生きている棚田へ行ける日を待ちわびています



「ここが好きだから」能登と共に生きる、震災からの再生
奥能登棚田ネットワーク協議会 事務局長 田畑 行輝

2024年1月1日16時10分、この日は決して忘れないだろう。地面が割れる音、家屋が倒壊するさま、スマートフォンからのけたましい警報音、今でも鮮明にその時の恐怖がよみがえる。2022年6月19日、2023年5月5日に続き、3年連続で大きな地震が発生した。今回の地震は能登半島全域に甚大な被害をもたらした。

その被害を目の前にし、先人たちから受け継がれた能登の里山里海、育まれた営み、生業、文化、知恵、経験のすべてが破壊された。この先、能登で暮らしていけるのか、離れるべきか、残るべきか、色々な感情が入り乱れ日々葛藤していた。

ふと、スマホを見てみる。そこには生まれ育った棚田集落での何気ない日常の一コマが無数にあつた。不便で不安な避難生活の最中だが、時間はある。この人生で一番長く深く考えた。そして出た結論は「ここが好きだから」。シンプルな答えだ。心が決まった。

決まってからは被害状況の確認。田んぼ、用水、ため池の被害状況の確認、応急修理など、田植えまでにやることは無数にあつた。なんとか、比較的被害の少ないところに田植えまでこぎつけることができた。例年の約3分の1の面積だ。しかし、農作業が実に楽しい。棚田に囲まれたあたりまえの生活ができることに感謝している。

稲刈り前の9月の能登豪雨でも多くの被害が出た。「地震よりもひどい」と語る人もいるほどだ。しかし、私も含めて能登の人たちは負けていません。やわやわと前を向いて自分たちの故郷を復興します。

最後に、これまで全国の皆さんには多くの支援や励ましのお言葉をいただき、大変感謝しております。ぜひ能登にお越しいただき、笑顔で生きている能登を感じてください。



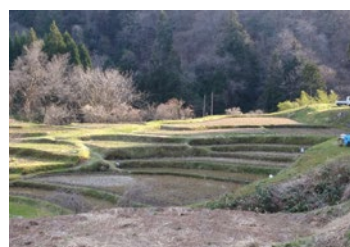
用水の被害



地震による隆起



集落にある石上棚田神社



地震前の棚田

編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



民俗の風景 雪形
酒井英次 絵画集(Ⅲ)



酒井 英次 著
2000円(税込)
自費出版
2024年12月

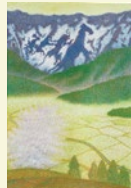
「田んぼに入る日本画家」である酒井英次さんの三冊目の画集。棚田ネットワーク発足初期からの会員で、棚田に入ってからこそ描くことができる深みのある棚田の絵画を描いている。フランスの新印象派の画家ジョルジュ・スーラの点描のように濁りのない色彩は、どこまでも爽やかな発色で鑑賞者の心を浄化させる。

今回の画集のテーマである雪形は、春、雪が融け、山の残雪や山肌が作る模様のごとで、農耕や祭祀の時期の目安とされ、文化的景観として注目されている。しかしながら、辞書には「残雪」の場合のみ説明されるなど一般には十分に理解されていない。そのため、この画集には「人形の雪形(ボジ)」など「残雪型(ボジ)」と「山肌型(ネガ)」の解説をしているのが親切である。

雪形の前景に棚田が広がる絵が数点ある。雪形が出現したら代掻きを始めるなどといった農事歴は、棚田の文化として重要である。



種蒔き兔 (Ⅱ)
立兔 (ボジ)



プレーメンの
音楽隊 (ネガ)

第54回

棚田俳壇

令和7年

誌上添削

八重桜過ぎし遠き日見るごとく
■ヒント
「過ぎし」「遠き日」は一つに
【次回募集は5月末日】※解答は下記

高き山 残雪残してほころびぬ
節分や力満ち行く友の声
早春に笑顔はじける手話の子ら
裸木の枝の先のその先に
(写真句) 節分草 友の声にも力満ち
浜松市 一露



離職して米は専し春一番
春風や荷物両手に退院日
物価高桜吹雪に銭も飛ぶ
車椅子押す道端につくしの子
豊島区 小川順子



ゆめびりか 今日も横目に生うどん
堀越えの枝を切らんか また悩み
十八円 負けるなモヤシ アイラブユー
雪帽子 切株のお遊戯 山の田に
所沢市 上久保郁夫

田を巡り 巡り温むや 雪解水
淡雪の予感深まる 手酌の夜
蒲公英や 馴染みの田んぼの片隅に
春風や 先輩眠る 樹木墓
松戸市 井上久志



春風に 棚田の日程 調べたり
大雪が 棚田を潤す 水となれ
空う風 うつむき歩き 鉢合わせ
北風に めげずと 梅花 咲きにけり
取手市 杉山行男
雪二尺 豊作祈る 学校田
南風 北への群れを見送る
薊花 一輪ありて 休耕田
休耕田 草刈だけと 農人が
新潟市 田入絵人
冬風 スー! 地震かと 跳び上がり
さっぱりと 枝葉落として 簾なり
枯葉散り カサコブツツ 土となる
バス待ちに 千切れ雲飛ぶ 人の世に
雲無しの空は 寂しく子等いない 街は哀しい
陽だまりの縁側も 無く 餅焼きの火鉢も 無くし
今日も又「いいね」「いいね」で日が暮れる
(Face book)
吹っ飛ばし
トラップ 暴風 世の常識を
調布市 高木宏明

時事通信社

棚田ネットスタッフの
つ・ぶ・や・き
(輪番制)

今回のつぶやき人
事務局
きたのとらさん

13年間続いた松崎町石部棚田での「昔ながらのお米づくり」プロジェクトが終えることになりました。都内からのアクセスが良くないにもかかわらず、養口と本畦のある田んぼの復活、田起こしから代掻きなど多くの作業を自分達でやるという活動は大変で、よく続いたものと関係者の熱意に頭が下がります。

具体的な活動により、実践的な農作業のノウハウや、農家の皆さんとの共通認識を持つことができ、当会の評価を高めたのではないのでしょうか。これからも、ホームページのサポート等で石部棚田と引き続き関わっていくことですが、まずはお疲れさまでした。当会としての農作業体験は、千葉県鴨川市の川代でのオーナー制を活用したお米づくりになりますが、首都圏から近いというアクセスの良さを活かし、日帰りで気軽に体験できるよう企画していきたいと思っています。さらに、これまで田植えと稲刈りだけの体験でしたが、草刈りや脱穀等のオーナー制と同様の体験も加えて、より多くの方にお米づくりの楽しさ大変さを体験していただきます。石部棚田で経験された方も参加していただき、ノウハウを教えてください。



千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

2025年川代プロジェクトを復活します



川代プロジェクトは、諸般の事情により去年は休止しましたが、川代棚田でのオーナー制は元気に続けられており、今年はオーナー制度に参加する形で復活させ、会の体験イベントとして活動します。

川代棚田のオーナー制度は、ほ場整備をしなかった山裾の約1ha、50枚ほどの棚田で行われ、40組を超えるオーナーと集落の農家が参加して行われています。加えて城西国際大学の学生も参加するなど、年々にぎやかさを増してきています。オーナーさんに加えて地元の皆さんも多く参加され集落総出で指導してくれるのが素晴らしいと感じます。棚田を取り巻く状況は厳しいものがありますが、庄司代表はじめ、集落一丸となって取り組んでいます。

「美味しい長狭米づくり」を目指した体験イベントに皆様の参加をお待ちしています。日程(※現地集合が原則、電車利用も可)

●種蒔3/30(日)●田植5/3(祝)●草刈6/1(日)、7/6(日)、8/3(日)、8/24(日)
●稲刈8/31(日)●脱穀9/7(日)●収穫祭10/5(日) (杉山行男・小川順子)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

卵塊調査を継続中



春の水溜りに卵を産むヤマアカガエルの卵塊を探す「第18回かえるの卵を探そう!」は、菜虫化蝶(なむしちょうとなる)頃、2025年3月15日に予備調査をしました。早春のどんよりとした天気(ただし、スギ花粉が飛散)の中、参加者は2名(大人2名)、卵塊は7個見つけることができました。去年は暖かい日が続いたため、2月24日に初の調査をおこないましたが(結果、まだ早かった)、今年はそのようなことはなく良かったです。ネコヤナギも見ごろでした。

今年度は昨年8月に予定していた「こどもビオトープ観察会」が中止となってしまうため、年2回の開催、20日(木/春分の日)に本調査をする予定です。

調査し始めた頃は、毎年必ず産卵していた民家近くの溜池も、数年前から乾燥化し、卵塊が見られなくなりました。また、どこの棚田も同じ状況ですが、山の奥から休耕田となり、次第に藪となり、卵塊が見られなくなります。ゆっくりですが18年間着実に変化しています。なお、棚田に設置している、のほり旗「つなぐ棚田遺産」は景観を考えると要らないと思います。(相田明)

【稲倉の棚田から】

地域おこし協力隊活動を通じて 地域おこし協力隊 玉崎 修平

「(前略)軸にする考え方を「営農」だけに固執した経済的自立は全く不可能です。(中略)カカワレル体制作りが、外部の協力者を呼び込み、そこで多様化する知識と技術が、それぞれ最大限に発揮されていくことで経済的に自立した持続可能な地域となる。」(棚田に吹く風130号・2024年冬号)



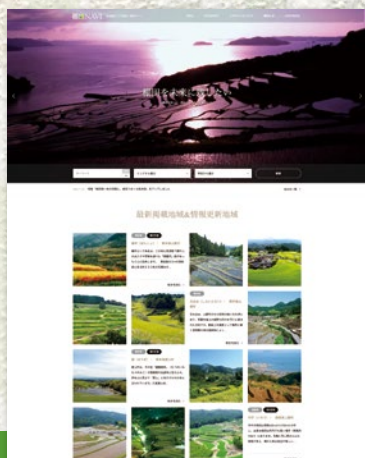
稲倉の棚田が「むらづくり部門」にて2024年に天皇杯を受賞した当時、特別寄稿の最後を締め括った文章を読み返していました。私自身の地域おこし協力隊の活動は、2025年3月末をもって任期終了となり、あらためてカカワレル体制作りの重要性和難しさを痛感しています。地道に積み上げてきたことも、崩れるのは一瞬です。

協力隊は、3年目で企業化して地域定着が成功事例となりますが、私自身は、やや異なるステップへ踏み出すことになりそうです。残念なのは、稲倉の棚田に深くカカワレル活動が困難となることですが、協力隊以前から着手していた棚田CAMPは、引き続き4月19日～20日の開催(第13回 棚田CAMP2025春)に向けて準備中です。

全国棚田(千枚田)検索サイト

棚田NAVI

掲載地
350ヶ所
突破!



2020年春にオープンした全国の棚田情報がキーワード検索できる『棚田NAVI』が、掲載350地域に到達。今後も続々と更新していきますので、ご期待ください!

『棚田NAVI』は、地域はもちろん、オーナー制度、ライトアップ、棚田カードなどニーズにあったキーワードで絞り込み検索もできる業界初の棚田データベースサイトです。棚田の特色や基本情報ほか、GoogleMapとの連動でアクセスも早わかり。地域情報などは関連サイトへのリンクもありポータルサイトとしての機能も充実しています。

最新更新情報は、facebookページ、X(旧twitter)にて告知いたしますので、ぜひフォローしてください!

<https://tanada-navi.com>



@tanadanavi



<https://www.facebook.com/tanadanaviwebsite>



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員に
なろう!

年会費

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)」やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか?

○個人会員

維持会員	1口1万円(1口以上)
一般会員	4,000円
応援会員	3,000円
学生会員	2,000円



法人会員を募集しています!

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力のもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

○法人会員(賛助会員)
1口3万円(1口以上)

編集部から

棚田ネットからのお知らせ!

2025年の通常総会は
5月中旬に開催予定です!

- 日時: 5/17 (土)
午後1時~
- 場所: エコギャラリー新宿
2階研修室

事業報告と決算、
事業計画と予算案
など。ミニ講演会、
懇親会も計画中
是非ご参加ください!



<https://www.tanada.or.jp>



2025年 春号 Vol.135

発行



認定NPO法人
棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16トーンシンハイム新宿704号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail: info@tanada.or.jp URL: www.tanada.or.jp
郵便振替口座: 00100-7-151565